

中学年総合 「母子が大好き、母子のいいところを伝えよう！」

中学年は、今年度総合的な学習で「母子が大好き、母子のいいところを伝えよう！」をテーマに学習をすすめました。「母子地域にはどんないいところがあるのかな?」「母子地域の特産物は何?」「母子地域の良さは?」というところから学習を始め、実際に見学に行ったり、分からないことやもっと知りたいことをインタビューしたり、また、タブレット端末などでも調べたりしながら総合的な学習の時間を進めてきました。

1. 母子のいいところ ～花のじゅうたん～

「母子地域にはどんないいところがあるのかな?」という問いかけに、子どもたちから真っ先に「花のじゅうたん!」と答えが返ってきました。それだけ母子地域にも、子どもたちにとってもいいところなんだということが分かりました。そして実際に見学に行き、シバザクラなどを観察したり、観光パンフレットやタブレット端末なども使い詳しく調べたりしていきました。調べても分からないことはおたずねをして分かったことなどをまとめていきました。開園期間は短いけれど全国各地から観光に来られていること、また、閉園時には花の手入れや苗の植え替えなどをされていることなどを知ることができました。



2. 母子の特産物 ～母子茶～

「母子地域の特産物は母子茶!」と子どもたちは知っていましたが、なぜ母子地域でお茶づくりが盛んになったのか、お茶ができるまでにはどのようなことをされているのかなど、疑問がたくさんありました。そこで茶工房「きらめき」から来ていただいた新茶教室や、調べ学習で出てきた疑問や分からないことをおたずねをして解決していきました。同じ茶葉から緑茶やほうじ茶、烏龍茶だけでなく紅茶まで作ることができることを知って、驚いていました。また、茶摘み時期は年2回あること、茶畑の手入れは冬の時期も行われていることなど初めて知り、母子茶のことをもっと知りたい、そして知ったことを伝えたいという気持ちも高まっていきました。小野小学校交流会や母子ふるさと感謝祭で母子茶について発表しました。



3、母子の特産物 ～花豆づくりを通して～

前述2の冒頭でも書きましたが、母子の特産物といえば「母子茶」や「そば」をイメージされる方も多いですが「花豆」も母子地域の特産物の1つです。子どもたちも「花豆のことをもっと知りたい。」「花豆を育てて収穫したい。」と学習開始当初に言っていました。そこで、今年も今北和隆さんに教えていただきながら、花豆づくりを行いうことにしました。花豆は高地（標高700m以上でないと結実しないといわれている）の冷所で栽培されるものです。標高約500mの母子で栽培され、収穫できるのは本当に珍しいことだと教えていただきました。ポットへの植ええに始まり畑への植え付け、支柱立てに縄の張り付け、水やりの方法などいろんなことを今北さんに教えていただきながらすすめていきました。子どもたちとも水やりなどお世話をしていったのですが、今年度は猛暑日が続き、30株植えたうち実際に結実し、収穫できたのは9株だけでした。しかし、9株でも子どもたちにとって大事な花豆を収穫できたことは本当に良かったです。今北さんにも収穫した花豆を見ていただき「思ったより収穫できたね。」と言っていました。

花豆づくりを新聞にまとめ、母子ふるさと感謝祭でも発表することができました。ふりかえりには「もっと花豆について調べていきたいです。」「来年はもっとたくさん収穫できるように、今年今北さんから教えていただいたことを次の3年生にも教えられるようにがんばりたいです。」「これからも花豆の文化を受け継いでいきたいです。」とありました。これからも子どもたちとともに「母子の特産物 花豆」を大切にしていきたいです。



今北さんに
花豆について
教えて
いただきました。



棚を植える時は
その部分を下に
するとい
い
んだな！



実がなったよ！



霜が降りる前に収穫するんだね！



みんなで収穫しました。今北さんにも収穫した花豆を見ていただきました。